

# 赤穂市女性交流センターだより

第16号 2018.8

女性センターには、女性問題・男性問題に関する図書・行政資料をそろえ、誰でも自由に閲覧できるような情報図書コーナーがあります。その中の図書を中心に本などを紹介します。

## 男はなぜこんなに苦しいのか

海原純子 朝日新聞出版刊



海原さんは心療内科等のお医者さんです。

強さと生活力を求められている男性たちのストレス要因をアイデンティティーの危機という視点から捉え、そこから回復するための提案が書かれています。回復力は、誰にでも備わっているもので、自分の思考の癖や習慣を少し意識して変化させれば、今ある問題は必ず乗り越えられると書かれています。過労死は、単に長時間労働によるものではなく、単一の仕事だけに没頭し他のことをすべて切り捨てていることも一因であるという理論が紹介されていて、気持ちが追い込まれている時は、単一の事だけに思考が偏っていて不安定を助長していくことを思うとじっくりいく理論だと思えました。ストレスに陥った人はまず気持ちを表現することから始めてみるのが大切なようです。(女性交流センター蔵書)

## 麦ばあの島 ①②③④

古林海月

すいれん舎刊



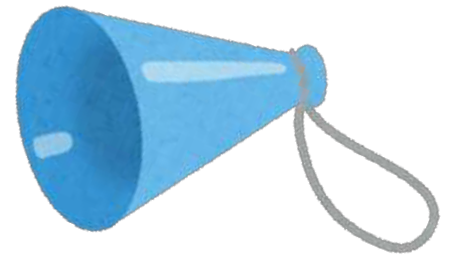
古林さんは漫画家さんです。元兵庫県職員で福祉事務所に勤務していた時、国立ハンセン病療養所邑久光明園を訪問され、交流が始まったそうです。法律によりハンセン病患者達は、家族と引き離され療養所へ隔離され、家族・親族を偏見や差別から守るために偽名を名乗られ、結婚しても子供を作るとは許されないなどの療養所での生活をしいられます。療養所を離れ地域で生活していても、誤解・無関心・根拠のない恐れなどから偏見や差別にあいます。あまりにも抱えて過ぎている心の痛みを読むとハンセン病とその歴史を理解しなければと思います。「あん」本(著・ドリアン助川)映画(河瀬直美監督)も合わせておすすめします。ハンセン病は現在、完治する病気であり法律は廃止されています。



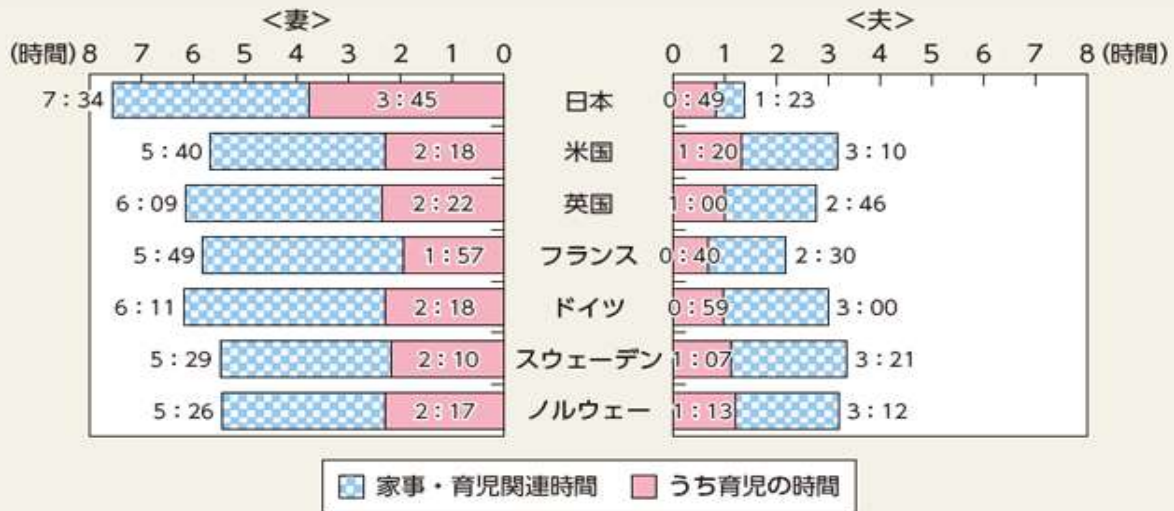
9月18日(火)・10月16日(火)は、カウンセラーによる相談日です。ご希望の方は、市民対話課(☎43-6818)または女性交流センター(☎43-7800)にご予約下さい。

# こんな表

## 見たことありませんか？



I-3-8図 6歳未満の子供を持つ夫婦の家事・育児関連時間（1日当たり、国際比較）



(備考) 1. 総務省「社会生活基本調査」(平成28年), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey"(2016) 及びEurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men"(2004) より作成。  
2. 日本の値は、「夫婦と子供の世帯」に限定した夫と妻の1日当たりの「家事」、「介護・看護」、「育児」及び「買い物」の合計時間(週全体平均)。

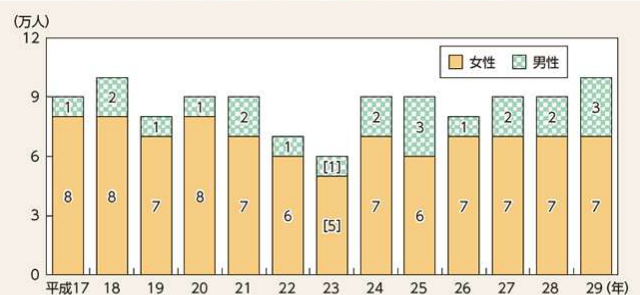
6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連に費やす時間は1日あたり1時間23分で他の先進国と比較して低水準にとどまっています。平成32年までに2時間30分という目標が掲げられています。関連した統計で、6歳未満の子供を持つ夫の家事・育児関連行動者率というものがあります。それには、一日当たりの行動者率で見ると「家事」については、妻・夫共に共働きの世帯で約8割、夫が有業で妻が無業の世帯で約9割の夫が行ってなく、「育児」については、妻の就業状態にかかわらず、約7割の夫が行っていないという結果がでています。(本調査では、15分単位で行動を報告することとなっているため、短時間の行動は報告されない可能性があることに留意が必要である) 安易な考えですが、行動者率が増えれば2時間30分という目標数値に近づくかも知れませんね。



介護・看護を理由に過去1年以内に離職した人の状況は平成29年には10万人でした。男性の離職も増えてきつつありますが、女性の離職は全体の何割を占めるでしょうか？



I-3-12図 介護・看護を理由とした離職者数の推移(男女別)



(備考) 1. 総務省「労働力調査(詳細集計)」より作成。  
2. 前職が非農林業雇用者で過去1年間の離職者。  
3. 平成23年の数値([ ])表示は、岩手県、宮城県及び福島県を除く全国の結果。